

暑熱(ヒートストレス)を受け検定成績表の今回検定日の乳量が低下していませんか？ 牛は気温よりも湿度の影響を受け易いことから、いかにして湿度を下げるかが暑熱対策のポイントとされます。

①暑熱時は呼吸数の増加(50～60回/分→80回、開口呼吸)と体温上昇(38.6℃→39.2℃)が顕著なので、容易に判定できます。

②結果的に暑熱馴化の機能が働き、代謝熱を下げるために採食量が落ちて乳量が下がります。また、体熱放散のために血液が体表面に集中し子宮への血流量が減少し子宮内温度を上昇させ、卵胞内に活性酸素ができます。これらが繁殖成績低下の一因とされます。対策としては十分な飲水量の供給が重要で、通風を心がけた牛舎環境の改善、品質の良い粗飼料給与、ビタミンEやセレンの酸化剤投与などが上げられます。(重曹や酢を与える方も見られます)

平成20年7月、8月 (社)家畜改良事業団電子計算センター